

外國定刊文籍抄録

「フオルムアルデヒド」蒸氣を用ひて輸尿管「カテーテル」を消毒する簡單なる装置
(R. Ascoli, Zschr. f. Urol., Bd. 35, H. 1, S. 6, 1941)

「カテーテル」の外部は石鹼水で洗ひ、内部は先づ注射器で壓力を加へ乍ら蒸溜水で洗ふ、次に稀石鹼水、最後に再び蒸溜水で洗ふ。それから50cmの乾いた注射器で空氣を3—4回通す。消毒には著者考案の特別の装置を作り、豫め「トリオキシメチレン」2錠を入れて置いた「エルレンマイエールコルベン」を「ガス」室にて熱し「コルベン」の口より出る温い「フオルムアルデヒド」蒸氣を「ゴム管」に通じさし之れに連結せる注射器に依つて「カテーテル」に通じさす方法である。(岡崎抄)

斜位の治療法 (Wells, D. W., Am. J. O., Vol. 23, p. 563—566, 1940)

之は1350人の眼科醫に斜位を如何にして治療するか、又如何なる効果が夫れに由つて得られるかを質問して461人の返事を得た成績で有る。この中48人は斜位は治療しないと返答したが、多くは(323人)立體鏡を用ひて居る。效果に就ては何等の結論も見出し得なかつた。即ち之は一定の型式によつて記載しなければ意味無い事を知つた。(梶浦抄)

角膜軟化症と脾臟囊性纖維症 (Gauble R. C., Am. J. O. Vol. 23, p. 539—544, 1940)

角膜軟化症の際に Vitamin A 缺乏症が原因となつて起る體、殊に唾液腺、肺上皮、脾臟、脾臟等の組織の障礙を探求した。即ち Vitamin A 缺乏症の際に屢々かかるものが認められたが逆に脾

臟の障礙が有つて、其の爲に Vitamin A 缺乏症の起つた例を報告した。即ち脾臟の組織變化あり、第1に脂肪、從つて油にとけやすい Vitamin A の缺乏が起り、攝取量に比して Avitaminose が起り、角膜軟化症を起すものを有ると結論した。
(梶浦抄)

鐵片抽出手術後の後效果竝に合併症

(Schley Klin. Mbl. f. Aug. Bd. 104, S. 675—679, 1940)

66人の鐵片外傷患者を手術後1—8年に互つて觀察し、其の結果水晶體、又は硝子體濁濁は減少して居るが、網膜剝離及び眼球癆、眼球摘出等が増して居るのを知つた。且一般に視力は低下し、全體の54.9%は實際上盲となつて居る。即ち鞏膜をとらして鐵片を取る事は網膜剝離や眼球癆を惹起し易いから、巨大磁石により前房に出して二次的に取る可きで、この失敗した時に行ふ可きである。(梶浦抄)

植物神經過敏の1症狀として腦内壓低下に就て (W. Geller, Dtsch. Zschr. f. Nervenheilk. Bd. 151, H. 3 u. 4, S. 91, 1940)

器質的腦疾患、頭部外傷及び變質人に就て、後頭下穿刺により50mm水柱以下の低液壓を示すものが約2.5%あつた。之は無力體質、植物神經過敏殊に迷走神經緊張、低血壓者に多く、數は震顫麻痺、腦炎後遺症、變質人の順序で間腦に關係ありと思ふ。症狀は液壓過高の場合と略ぼ同じ。治療には植物神經毒を用ひ、或は水分代謝の關係から蒸溜水或は低張液を用ふるが一定の効果はない。(三好抄)

外傷精神病の誇大型 (G. Zillig, Nerven-
arzt, 13 Jg., H. 4, S. 145, 1940)

躁気質ではあるが遺傳的には傷もない一軍人が左後頭部の外傷により、一般の経過と異なる状態を呈した1例。外傷直後数日間の意識喪失後漸次清明になると共に運動不安が起り、静まるにつれて言語漏と錯話を生じ、同時に、相當する感情を伴はざる系統的誇大念慮が約10日間続いた。其の際軽度の意識濁濁と、詳細な検査によつて分つた程度の見當識及び記憶力障害を伴つただけである。其の後に至つて甚しき多幸、感情浮動、感動暴發及び完全なる記憶喪失が數週間続いた。3箇月後に記憶力は回復したが、精神病状態は不變であつた。間腦と意識、情緒との連關に興味ある例である。(三好抄)

器質的腦疾患に於ける假性幻覺

(W. Kurth, Arch. f. Psychiatr. Bd. 112, H.
1, S. 90, 1940)

假性幻覺は正常人でも特別な場合、例へば入眠時、過勞、激しき感動の時には存在するもので、明かな形をなさず、感情が重要な要因となる。Jaspersは幻覺は誤れる認識であり假性幻覺は誤れる觀念であるとする。第1例は前大戰で頭部損傷を受け、1眼失明、兩耳難聴及び耳鳴、眩暈を訴える。數年前より耳鳴が人の聲の如く聞え出し、又難聴者によくある關係妄想、嫉妬妄想が現はれて來た。又失明した目に様々な場面が映畫の様に見はれ、本人は之を心眼で見ると稱する。空氣腦竇により腦萎縮像が見られる。第2例は左額顳葉の腫瘍。自分の傍に人の姿が立つ。男か女か分らぬ。振り向いて見ると居ない。歩き出せばついて來る。患者の意識は明瞭で、精神異常はない。甚しい恐怖を伴ひ、其の恐怖から脱れやうと大努力をすれば姿を消す事が出来る。これはあく迄も灰色の姿であり、明瞭な視覺像ではない。(三好抄)

新陳代謝障碍と精神分裂病病型

(W. Geller, Nervenarzt, 13 Jg., H. 9, S. 399,
1940)

精神分裂病を單一の疾患となすか否か困難な問題であるが、新陳代謝の様相と病型の關係から次の3群に分けて見る。Asthenisch-antistatische Schizophrenie (無力自閉型)、血液の貯藏アルカリ増加、血糖、Cholesterin、殘餘窒素減少、血糖に及ぼす効果は第2群と反對で Insulin が Adrenalin より強い。Hyperthym-expansive Form (發揚誇大型)、貯藏アルカリは稍々少なく乳酸及び血糖は多く、300單位の Insulin を注射しても低血糖甚しからず。Triebhaft-hebephrene Schizophrenie (慾動破瓜病)、水分代謝及び Cl. は週期的に變動し、急に脱水する時興奮、不安を現はす。この外に妄想型或は分裂病の如き症狀を呈する變質精神病あり。明瞭な分類は出来ない。

(三好抄)

小兒の尿石殊に幼兒に於ける巨大輸尿管
結石 (K. Heitsch, Zschr. f. Urol., Bd. 35,
H. 2, S. 80, 1941)

著者は統計からして西歐洲諸國、又獨逸國に於ては小兒の尿結石は非常に稀れであると云ふ。併し南方に行くに従つて飛躍的に頻度が増加す。バルカン及びダルマチヤの如き小亞細亞に於ては小兒病として蔓延して居る伯林のルドルフ、ウイルヒョウ病院の泌尿器科では7年間に僅か4例しかないと云ふ。この中で最も若いのが3歳の男子であつてこの年齢には珍らしい位の巨大輸尿管結石であつて長さ7cm、最大直徑1.5cm、重量7gの磷酸鹽であつた。(岡崎抄)